

日時：2021 年 1 月 23 日（土）14:00～16:00

場所：オンライン開催（Zoom 使用）

内容 1：導入説明「学習障害への多職種アプローチ～当センターにおける試み～」

講師 梶縄広輝氏（横浜市総合リハビリテーションセンター言語聴覚士）

内容 2：講義「漢字書字の習得が困難な学習障害児への支援

～認知処理様式や体性感覚の入力方法などに配慮した学習方法～」

講師 大西正二氏（横浜市総合リハビリテーションセンター作業療法士）



梶縄広輝さんと大西正二さん



当日の様子です

今回の定例会は、学校や病院で働く言語聴覚士や、教員、心理士等 68 名の参加がありました。資料は講義のレジュメに加え、横浜市総合リハビリテーションセンター作成の「読み書きが苦手な児童への合理的配慮事例集」の配布がありました。内容は導入説明と講義の 2 部構成で、最後の質疑応答では、多数の質問が寄せられました。参加者アンケートでは、「大変参考になった」「参考になった」との回答が 100%を占めました。

【報告の概要】

梶縄広輝氏「学習障害への多職種アプローチ」

発表者が所属するセンターでの取り組みについて報告がありました。LD 評価における多職種アプローチ、教育との連携が示され、支援の共有を目的として作成された「読み書きが苦手な児童への合理的配慮事例集」についてご紹介いただきました。

大西正二氏「漢字書字の習得が困難な学習障害児への支援」

作業療法士である発表者が行ってきた漢字書字の習得が困難な学習障害児への介入研究について報告がありました。

研究の特徴は①従来の視写による漢字書字学習のプロセス

に着目、②書字運動や姿勢、体性感覚に着目、③認知処理様式（継次処理・同時処理）に配慮の 3 点でした。



漢字書字に関する先行研究では、習得が困難になる要因、認知処理様式の影響、体性感覚との関係などが示されており、それらを踏まえ発表者は視写の工程を設定し全ての工程を補う学習支援方法を検討し、体性感覚法と定義しました。

体性感覚法の効果に関する比較検討を目的に、書字障害児 4 症例に対して漢字学習を 3 通りの方法（視写法、体性感覚法①継次処理方略、②同時処理方略）で実施し、単一事例研究法を用いて検証しました。その結果、体性感覚法は書字障害児の学習に有効であることが示されました。ただし、各症例の認知処理様式特性により画の提示方法を選択する必要性がありました。また、近位関節の書字運動と空書を使用した学習で文字運動覚心像の形成が促進するという仮説は全ての児童には適応されず、姿勢保持機能・運動覚の感度・ひらがなの文字運動覚心像から適した書字運動を選択する必要性がありました。そして、それらの対応により文字運動覚心像が形成されやすい学習法の場合、漢字の想起を空書が補助する場合があることが示されました。

最後に、発表者が開発した体性感覚法を用いた漢字学習アプリ「Oska Writing」をご紹介があり、今後アプリの効果検証を進めていかれるということです。

【参加者の声】

梶縄 広輝氏「学習障害への多職種アプローチ」

- ◎ チームでの学習障害へのアプローチが参考になりました。
- ◎ 自身の勤めるセンターでも同様の流れでLD評価を行っており、学校現場との連携には難しさを感じています。合理的配慮事例集はとてもわかりやすく素晴らしい取り組みだと思いました。

大西 正二氏「漢字書字の習得が困難な学習障害児への支援」

- ◎ 今回、認知処理が同時処理タイプか継次処理を知ることに加えて、運動の問題について詳しく教えていただき問題を把握する視野が広がりました。
- ◎ 学習障害といってもいろんな段階でのつまづきがありいろんな参考書によって視点が違うので、どう捉えていいのかを悩んでいました。疑問に思っていたことを、脳機能の段階として理論的に説明をしていただいて、また実践に結びつく形での説明でとてもすっきりと納得出来ました。

書字学習アプリ「Oska Writing」について

- ◎ 早速、やってみました。なによりやっていて楽しい。
- ◎ 視写において、お子さんそれぞれつまづく箇所は違うと思いますが、全ての工程を補えるアプリということで、ぜひ支援に導入したいと考えました。
- ◎ 支援に対する労力があまりかからないほうが、支援のハードルが下がると思うので、積極的に使うことで、支援の一つとしてこのアプリが広まることを望みます。

「覚えられたよ！」
漢字が苦手な子どもたちのための
アプリ教材が完成しました！

Oska Writing

大西式漢字書字攻略法

Onishi's Strategies for Kanji Writing

有料版：小1～中学漢字＋ひらがな・カタカナ

App
Store



Google
Play



無料版：小1漢字＋ひらがな・カタカナ

App
Store



Google
Play



知的な遅れがないにもかかわらず、漢字が覚えられないお子さんが存在します。
このような漢字が苦手なお子さんは通常学級に約6%（2～3人）いると報告されています。
私は作業療法士としての臨床と並行して筑波大学の大学院で漢字が苦手な学習障害のお子さんの支援方法について研究をしています。研究でわかった有効な学習法をご家庭や学校で導入しやすくアプリにしました。「漢字が書けた！」とお子さんの成功体験が増えることを願っています。

問い合わせ先：大西正二 / 作業療法士
筑波大学人間総合科学研究科障害科学専攻博士後期課程
メール：oskawriting@gmail.com